

経営比較分析表（令和元年度決算）

愛知県 刈谷市

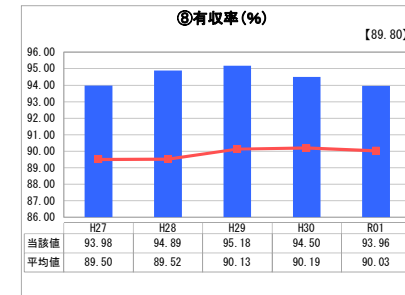
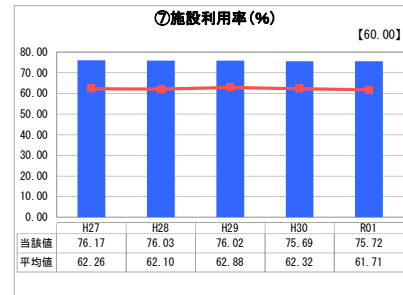
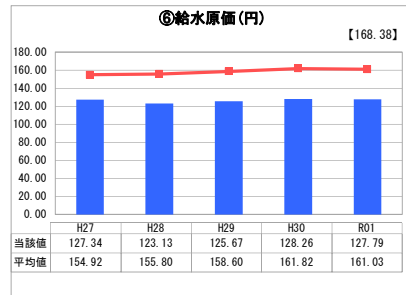
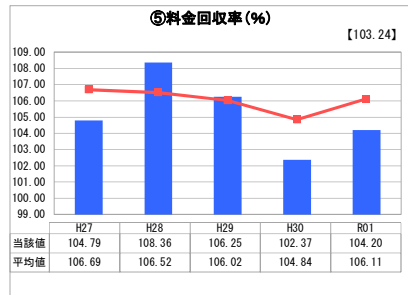
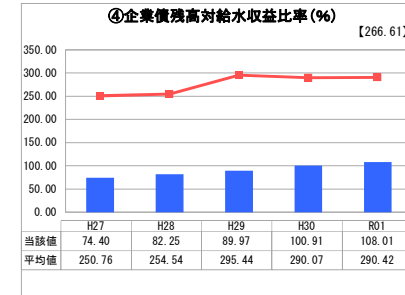
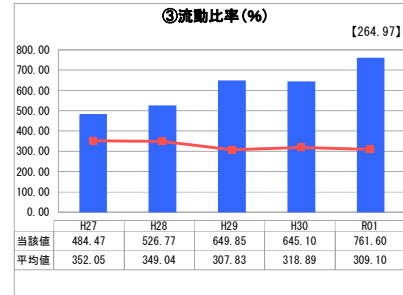
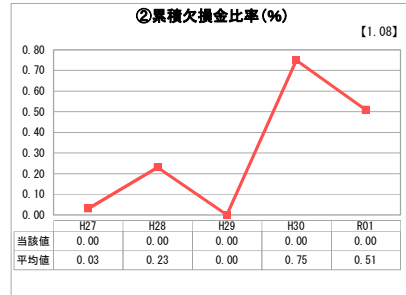
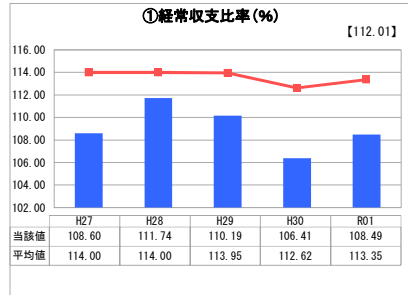
業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	87.29	99.86	2.024	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
152,665	50.39	3,029.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
152,611	50.39	3,028.60

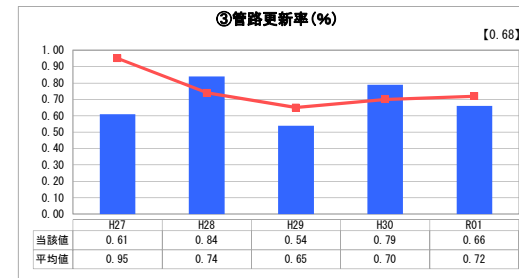
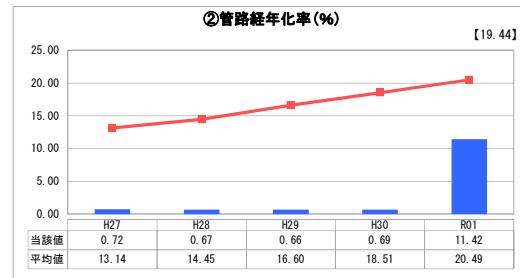
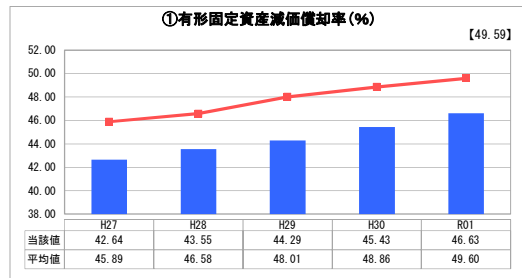
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、前年度と比べ、給水戸数の増加による給水収益の増や修繕費や動力費等の支出の減により100%超を維持しており、②累積欠損金が発生していないことから健全性を保っていると言えます。

③流動比率については、類似団体と比較しても数値は大きく、短期的な債務に対する支払い能力を十分有していると言えます。

④企業債残高対給水収益比率については、毎年借入を行っていることにより増加傾向にあります。今後の借入については、償還見通しをふまえて検討する必要があります。

⑤料金回収率については、給水収益の増や支出の減により前年度と比べ増加し、100%超を維持しております。しかし、今後大口使用者の自己水切替等による給水収益の減や施設更新等による費用増により、良好な数値を維持できなくなることも想定されます。そのため、必要に応じて適切な料金設定について検討する必要があります。

⑥給水原価、⑦施設利用率、⑧有収率については、毎年度安定した数値を保持しており、効率的な施設運営が給水収益に繋がっているとと言えます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、償却年数経過に伴い、今後も比率の増加が見込まれます。

②管路経年化率については、耐用年数を経過した資産の再調査を実施したことにより増加しました。今後、耐用年数を達し更新時期を迎える管路が増加することが想定されます。

③管路更新率については、年度によって数値のばらつきが生じていますが、引き続き計画的に更新を行っていく予定です。

以上から、今後、更新費用の増加が見込まれるため、財源の確保や費用の平準化を図りながら、計画的に更新を行う必要があります。

全体総括

各指標を見ておおむね安定した数値、類似団体の平均値を上回る数値を保持しており、全体的には良好な運営がなされていると言えます。しかし、今後目を向けると、大口使用者の自己水切替等によるさらなる給水収益の減や施設修繕・更新等の費用増により、厳しい経営状況になることが予想されます。

令和3年度策定予定の経営戦略については、投資と財政の収支均衡を図るため、投資部門の中長期計画と併せて策定を進めており、これらの計画を基に必要に応じて料金水準の適正化や企業債借入を実施する等、将来にわたり安定的な事業継続ができるよう努めていきます。